

留学報告書

航空宇宙工学専攻修士 2 年

留学先：ミュンヘン工科大学(2022 年 4 月～2023 年 2 月)

グルノーブル大学(2022 年 10 月～2023 年 2 月)

I. ミュンヘン工科大学(TUM)での交換留学

I-1 準備

・コロナ禍での延期

元々修士 1 年生の秋学期から留学する予定でしたが、ヨーロッパでロックダウンが続いていたため、留学開始を半年遅らせました。秋学期からの場合、どの国でも 1 年間の留学が可能でしたが、夏学期からの場合、当初希望していたフランスは半年間しか受け入れてもらえないということで、1 年間受け入れてもらえるドイツを留学先に決めました。

・奨学金

留学向けの奨学金と、通常の大学生活向けの奨学金のどちらも応募しました。**留学向けの奨学金でなくても、留学を制限していない財団のものであれば留学費用として使うことができます。**応募基準や家計基準を満たしている場合は、どちらも応募すると良いと思います。私の場合は、航空宇宙研究教育支援基金ソラビとプログラム（留学向けの奨学金）と服部奨学金（通常の大学生活向けの奨学金）の 2 つをいただいて渡航費や生活費を賄っていました。奨学金は応募時期が 1 年に 1 度ということもよくあるので、必要性が高い人は出発の 1 年半前くらいから探し始めた方が良いでしょう。

・家

ミュンヘンは家不足が深刻で家賃が高騰し詐欺も多いです。1 ルームだと月 1000 ユーロを超えることも普通で、多くの学生はシェアルームでも 700 ユーロほど払っていました。日本から家を見つけるのはほぼ不可能なので、絶対に**交換留学の申請の際に寮に申し込んだ方が良いでしょう。**Studentenwerk という大学生協のような団体が運営している寮に毎月 350 ユーロほどの破格の値段で住めます。1 点注意が必要なのは、**4 月から TUM に行く場合、半年で退寮しなくてははいけません。**よって、10 月以降もミュンヘンに住みたい場合は自分で部屋を探す必要があります。部屋探しの方法やアドバイスは大学から教えてもらえます。10 月から TUM に行く場合は、最大で 1 年間 Studentenwerk の寮に住むことができます。

・ビザ

日本国籍の場合、入国前の手続きは必要ありませんでした。（もうすぐ制度が変わると聞いています。）入国後、外国人局の面談の予約をとって住民登録をします。その後、住民登

録の証明書と他の必要書類を併せてサイト上にアップロードします。そして、書類が認められると仮ビザをもらうための面談が予約でき、面談が終わると正式な滞在許可証が郵送されてきます。外国人局側の手続きにとにかく時間がかかるため、スムーズに行っても滞在許可証を得るまでに3ヶ月弱かかります。仮ビザにはいくつか種類があり、学生が初めてもらうものだと、ドイツ国内にとどまることはできますが、国外に出ると再入国が保障されないことが多いです。つまり、日本国籍保持者がヨーロッパに自由に滞在できる90日間を超えた後、正式な滞在許可証を持っていないとドイツから出られなくなってしまいます。とにかく早くビザの手続きを行うことを強くオススメします。

・銀行口座

ネットバンキングのN26が開設が簡単で普段使いにもとても便利でした。留学生はN26を使っている人が多いため、友達との送金にも便利です。日本からの送金にはWiseを利用していました。

I-2 授業

流体力学シミュレーション、アカデミックプレゼンテーション、ドイツ語、異文化理解の授業を履修しました。1学期間で30ECTSが目安とされていますが、30ECTS取るのはかなり大変なので調整した方が良いと思います。

I-3 余暇

ミュンヘンは大学が多いため、留学生も多く、留学生向けのサポートやイベントが充実していました。タンデムで知り合った、日本語を勉強している学生ととても仲良くなることができました。また、TUMi (<https://tumi.esn.world/home>)とStudentenwerk (<https://www.studierendenwerk-muenchen-oberbayern.de/en/culture/>)のイベントは、しっかり企画してくれていて友達ができやすいと思います。TUMの学科ごとにも、留学生向けのタンデムやイベントがあります。4月と10月の最初の2週間はオリエンテーションウィークでたくさんのイベントやガイダンスが実施されるので、可能であれば現地入りしていた方が良いと思います。

II. グルノーブル大学での研究インターンシップ

II-1 準備

・受け入れ先探し

学生が長期のインターンを行うのはヨーロッパの大学や企業ではよくあると聞いていたため、1学期目の間に探そうと思っていました。しかし想像していたより大変だったので、どのように応募したかを報告したいと思います。

まず、応募方法は大きく2つあります。1つ目の方法では、インターンをしたい企業や機関のホームページでRecruitmentやOpen Positionという項目を探し、その応募フォームを記入します。ほとんどの企業ではCVと呼ばれる履歴書とCover Letterと呼ばれる志望動機や自己アピールを記入した手紙の提出を求められます。日本の新卒の就職活動とは違い、決まったフォーマットや文字数指定がないので自由度がかなり高く、最初は作成するのが大変でした。そして返信を待つのですが、この方法で採用されるのはかなり難しく、私は5つ送って1つしか返信が来ませんでした。その後、面接があったりなかったりするようです。この方法は、そもそも応募時期にやりたい仕事の空きがあるかという運も必要になるので、受入先を見つけるのは大変だと思います。

メジャーなのは2つ目の方法で、大学の先生や知り合いのツテをたどり、メールで直接CVと志望動機を送るというものです。人のコネクションが重視される文化があるそうで、私の周りでもこの方法で受入先を見つけている人がほとんどでした。私自身も、東大の研究室でお世話になっている先生に紹介していただいた研究室でインターンをすることになりました。私の友人の中には、CVを持ってオフィスを直接訪問するという強者もいましたが、それくらい強い気持ちが必要というのは実感しました。

・大学の手続き

元々、TUMの授業の一環としてインターンを行うつもりで、東大やTUMの事務の方と相談していました。しかし、私のインターン先がドイツ国外であったため、授業として認められないとTUM側から変更通知がありました。そこで、TUMに交換留学生として籍を置いたまま、グルノーブル大学で課外活動としてインターンをするというやや複雑な状態を取りました。交換留学生のままだと東大を休学できず学費を払わないといけないため、交換留学を辞退することも考えましたが、元々1年滞在の予定で東大から推薦していただいたことや、保険等の手続きに学生としての身分があった方が良いと考えたことなどから、交換留学を続行しました。TUM側では特に手続きは必要なく、オンラインの授業をフランスから履修していました。東大側では、安全管理の手続きをグルノーブル大学でのインターンのためにもう一度行いました。

・奨学金

途中で居住国を移動することになったため、いただいている2つの奨学金の事務局に、留学計画を変更しても問題ないか事前にお伺いしました。幸い、どちらも柔軟に変更を認めてくださいました。

・家

ドイツから探したため事前に部屋を見ることができず、詐欺を避けるべくプライベートの学生マンションに入ることにしました。学生マンションだと英語が通じることが多いの

で、英語圏でない国に留学する場合は安心して便利だと思います。私は、大学のホームページに載っていた学生寮の一覧から選びましたが、どの大学も部屋探しの情報を載せていることが多いので活用すると良いと思います。グルノーブルで部屋を見つけるのはミュンヘンよりも圧倒的に簡単で、都市によってだいぶ差があるようです。

・ビザ

フランスには学生インターンビザが存在します。インターンを行う学生と、学生として登録されている大学、そして受け入れ先の教育機関や企業の3者で同意書を作成します。それをオンラインで提出すると数週間後に承認が降ります。この承認された同意書と他の必要書類を揃えて大使館の面談の予約をとり面談に行きます。その後、数週間でパスポートにビザを貼って返送してもらえます。これが届いたら、オンラインで有効化すると無事に滞在できます。

私の場合は、ドイツにあるフランス大使館でビザを取得しました。一定期間以上ドイツに滞在するなどの条件を満たしている場合は、日本に帰らなくても手続きができました。

II-2 研究

Laboratory of Geophysical and Industrial Flows というグルノーブル大学内にある研究所で研究を行いました。研究内容としては、日本での修士論文のテーマに関連したキャビテーションという現象のシミュレーションを行いました。研究中のコミュニケーションで、フランス人の指導教員も私も英語が母語ではないため詳細な意見や質問を正確に伝えるのが難しかったです。伝わりやすくする工夫を試行錯誤する良い機会となりました。

II-3 余暇

学生ではなかったため、ミュンヘンにいた時より留学生向けの支援やイベントの情報を手に入れるのに苦労しました。インターンと比べて、留学の圧倒的なメリットは、人間関係の築きやすさだと思います。毎週水曜日の夜に、日本人や日本に興味のあるフランス人がカフェに集まってお話しする会が開かれていたので、参加していました。
(<https://www.facebook.com/groups/groupefrancojaponaisdegrenoble>)

II-4 就職活動

修士1年の3月に帰国の予定だったため、就活の開始には間に合いましたが、留学中も夏頃からオンラインで就活を進めていました。コロナ禍で急激にオンライン化が進んだことにより、面接や説明会などをオンラインで実施している企業が多いため、特に問題なく進められました。最終面接は日本で実施するような企業もありますが、留学中であることを伝えると、時期をずらしたりオンラインに切り替えたりしてくれることが多いです。全ての企業で対応していただけるとは限りませんが、挑戦してみる価値は大いにあります。必

ず受けたい企業がある場合は事前確認が必須ですが、幅広く関心がある場合はオンラインでも十分に対応可能だと思います。欠点を2点あげると、オフィスでのインターンシップには参加できないことと、時差があるので夜中や早朝に面接を受ける可能性があることで、注意が必要になります。

また、11月に留学生向けの採用イベントであるボストンキャリアフォーラムに参加しました。約150社が参加するため、多くの企業を知ることができるし、面接もまとめて受けることができ、他のことに時間を使いたい留学生には良いイベントだと思います。キャリアフォーラムに参加する場合、現地でエントリーするより、事前にエントリーして面接をいくつか受け、現地で最終面接を受けた方が、採用確率が格段に上がります。よって、9月頃から準備を開始した方が良いと思います。

全体的に、留学経験は多くの企業の面接で高く評価されていると感じました。

III. 最後に

手続きや日々の生活では、信じられないほど時間がかかる、間違っている、人によって言うことが違う、同じ人でも言うことが変わる、など日本人の感覚では考えられないようなことが重なり大変でした。その反面、主張すると融通が利く場面もあり、面白い経験がたくさんできたなと感じています。留学は、旅行とは違い、生活しなくてはいけないので大変なことも多かったですが、日本には決して会えない人に会えたり、できないことができたり、日本を客観的に見たりと、学べることや楽しいこともたくさんありました。そして、困ったときには助けを求めると、進んで助けてくれる優しい人たちがいるということも、いつもとは違う環境に飛び込んだからこそ改めて感じることができました。

最後になりますが、留学機会を与えてくれただけでなく、フランスでインターンをする機会まで与えてくださった皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。東大の指導教官の先生方には、受け入れ先を紹介していただいただけでなく、手続きを進める上でも迅速に対応していただいたり、後押しいただいたりしました。また、服部国際奨学財団と、ソラビとプログラムのおかげで急激な円安の進行や戦争による物価高騰などの中でも、お金の心配をせず滞在できました。そして、国際交流チーム(OICE)の皆様には現地の大学との手続きについて何度も相談させていただき、留学をサポートしていただきました。最後に、ウクライナの戦争が始まり情勢が不安定な中で、心配しながらも今しかできない経験だからと送り出し、常に私の安全と健康を気にかけてくれた家族の存在が、留学生活を乗り切る力となりました。私の留学生活は多くの方の支援あってこそ成立したことを心に刻み、今後も日々の研究活動を頑張っていきたいと思います。

もし疑問点や不安なことなど、聞きたいことがあれば OICE を通してお気軽にご連絡ください。分かる範囲にはなりますが、少しでもご協力できると嬉しいです。